

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7 年 3 月 31 日

事業所名 ひかり

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	状況に応じ、パーティションを使用し、スペースを有効活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	55%	45%	0%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	会議にて話し合いの場を設けており、参加できない職員には回覧等で共有している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	82%	9%	9%		保護者アンケートの回答が少ないため、送迎時等で直接要望等の聞き取りを行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	82%	0%	18%	HPで公表を行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	55%	36%	9%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	91%	0%	9%	定期的にあセスメントを取り、計画に反映している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		個々の課題に合わせて考えているが、企画の内容に偏りがある利用者もいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%		時間内でできるものを設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	91%	9%	0%	利用者自身の特性や意見を考慮して計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	サービス開始前の打合せは必ず行い、前日までの情報も共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	91%	9%	0%		送迎にかかる時間などにより、日によっては十分なやり取りが難しいこともある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	91%	0%	9%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	91%	0%	9%	モニタリングは定期的に行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	82%	0%	18%		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	会議には適切と思われる職員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%		学校のHPに予定の掲載がない場合は、保護者や学校に確認を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	73%	27%	0%	現時点で対象となる利用者はいないが、アセスメントをとる際に、主治医等の確認はしている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	73%	18%	9%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	82%	9%	9%	日頃より相談支援事業所や他の放課後デイと情報共有を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	82%	9%	9%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	45%	45%	9%		地域のイベントに参加する機会は設けているが、交流としては積極的には行えていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	73%	18%	9%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎時のやり取りはできる限り丁寧に行い、利用時の状況がイメージしやすいように努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	73%	27%	0%		保護者からの相談や悩みに応じてアドバイス等を行っているが、直接的なトレーニングは行えていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	91%	0%	9%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	45%	55%	0%		父母の会等の実施は難しい状態である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	受付担当を決め、苦情があった場合はすぐに内容の確認や解決に向けて対応できる体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	64%	36%	0%	活動内容はSNSを利用し、発信している。また、活動の様子を写真で保護者にお渡ししている。	夏休み等長期休暇の際は行事予定を配布しているが、通常時は天候や職員配置等で変更が多いため配布できていない。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	ピクチャーカード等を取り入れ、視覚的に分かり易い伝え方を意識し、活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	27%	73%	0%		スタッフの人数やスペースの都合上、地域住民の招待は難しい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	定期的な避難訓練、場合によってはマンションの上階への避難なども想定して行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	やむを得ず身体拘束を行う場合は、職員で話し合い、方法などを決定するよう取り決めている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	ヒヤリハットの報告は、全職員に周知し、法人内の他の施設からも対策についてアドバイスをもらっている。	